

川崎、未来への岐路：市制100年の歩みと福田市政3期12年の検証、次代のリーダーに託される宿題

序章：100年都市、川崎の現在地

2024年に市制100周年という歴史的な節目を迎えた川崎市。150万超の人口を擁するこの大都市は今、次の100年に向けた未来を占う重要な市長選挙の年を迎えている。現職の福田紀彦市長が4選を目指し立候補を表明する一方、新人の國谷涼太氏らが挑戦の名乗りを上げ、12年にわたる福田市政への評価と、都市が直面する課題への処方箋を巡る論戦の火蓋が切られた¹。

人口減少、激甚化する自然災害、そしてグローバルな経済構造の転換という、日本のあらゆる都市が直面する課題の波。これらに加え、川崎市は臨海部の巨大工場跡地の再開発という「100年に一度のビッグプロジェクト」という、独自の、そして壮大な機会と挑戦の只中にある。

本稿では、この歴史的な選挙を前に、川崎市が歩んできた100年の道のりを振り返り、歴代市長が築いてきた行政の礎と、特に福田市政3期12年がもたらした「功」と「罪」を徹底的に検証する。その上で、次代のリーダーに託されるべき宿題を明らかにし、川崎市の未来を担うべきリーダー像を多角的に描き出す。問われているのは、継続による安定か、あるいは刷新による変革か。市民一人ひとりが、自らの街の未来を託すに足るビジョンと実行力を見極めるための、重厚な判断材料を提供したい。

第1部：工業都市から「成長し続けるまち」へ - 川崎の歴史的変遷とDNA

1-1. 宿場町から京浜工業地帯の中核へ

今日の川崎市の原点は、江戸時代に東海道の宿場町として栄えた「川崎宿」に遡る⁴。多摩川の渡し場として賑わいを見せたこの地は、明治維新を経て近代化の波に乗る。1872年の日本初の鉄道開業に伴い川崎駅が設置され、交通の要衝としての地位を確立⁵。明治末期から大正時代にかけて、その地理的優位性から日本鋼管（現JFEスチール）や味の素といった大工場が次々と進出し、京浜工業地帯の中核としての骨格が形成されていった⁵。

都市としての「川崎市」が誕生したのは1924年7月1日。当時の川崎町、大師町、御幸村の2町1村が合併して産声を上げた⁴。その後も周辺町村との合併を繰り返し、1939年には現在の市域がほぼ確定⁴。この間、小田急線や南武線、東急東横線といった私鉄網が延伸されると、沿線には住宅地が広がり、市北部は東京のベッドタウンとして、市南部は工業地帯として、それぞれ異なる顔を持つ多面的な都市へと成長を遂げた⁵。

1-2. 成長の影と克服の歴史

しかし、その成長の道のりは決して平坦ではなかった。急激な都市化と工業化は、常に「影」を伴っていた。近代的な水道が整備される以前の1886年、二ヶ領用水の水を生活用水としていた地域ではコレラが大流行し、多くの命が失われた。この公衆衛生の危機感が、近代的な水道インフラの整備を促し、ひいては市制施行への大きな動機となった⁴。

自然災害もまた、この街に深い傷跡を残した。1923年の関東大震災では、工場地帯を中心に甚大な被害が発生。特に女工が暮らす寄宿舍の倒壊は多数の犠牲者を出し、近代化を支えた労働者の過酷な現実を浮き彫りにした⁴。そして第二次世界大戦末期の1945年4月15日、川崎大空襲によって市中心部と臨海部の工業地帯は焦土と化し、戦後復興は文字通りゼロからの出発を余儀なくされた⁵。

戦後の高度経済成長期には、産業の発展が深刻な公害問題を引き起こした。「公害の街」という不名誉なレッテルを貼られた川崎市では、市民による反対運動が活発化。この市民の力が、後の革新市政を誕生させ、全国に先駆けた環境対策へと繋がっていく。川崎市の歴史は、単なる産業発展の物語ではない。それは、成長がもたらす危機に対し、市民と行政が一体となってそれを乗り越え、より良い社会システムを構築してきた「克服の歴史」そのものである。この経験こそが、今日の川崎市の行政と市民社会に深く刻まれた、強靱なDNAとなっている。

1-3. 歴代市長が刻んだ道標

戦後の公選制導入以降、川崎市を率いてきた市長たちは、それぞれの時代が突きつける課題に真摯に向き合い、今日の礎を築いてきた。

金刺不二太郎(1946年～1971年):戦後復興の父

25年という長期にわたり市長を務め、戦災で壊滅した街の復興に尽力。「生産文化都市」の建設を掲げ、今日の川崎市の骨格を再建した。市民からの信頼も厚く、川崎市名誉市民第1号に選ばれている⁷。

伊藤三郎(1971年～1989年):革新市政の旗手

深刻化する公害問題を背景に、市民の声を代表して当選。美濃部都政、飛鳥田市政と並ぶ首都圏革新自治体の象徴的存在となった。彼のリーダーシップの下、1972年には全国で最も厳しいとされた市独自の公害防止条例を、1977年には全国初の環境アセスメント条例を制定⁹。企業の論理よりも「人間の生命」を優先する姿勢を明確にし、川崎市のイメージを大きく転換させた。

高橋清(1989年～2001年):バブル崩壊後の舵取り役

教員出身で助役も務めた高橋氏は、バブル経済崩壊後の厳しい財政状況の中で市政を担った。「市民目線」を信条とし、限られた財源の中で市民サービスをいかに維持するかに腐心。中小企業支援にも力を注ぎ、安定した市政運営を行ったと評価されている⁷。

阿部孝夫(2001年～2013年):行財政改革の断行者

自治省出身の官僚から市長へ転身。将来にわたって持続可能な行政サービスを提供するため、徹底した行財政改革を断行した¹²。また、自らの任期を3期までとする多選自粛条例を制定し、リーダーの在り方に一石を投じた¹⁴。この条例は、4選を目指す現職の福田市長を巡る議論において、今なお重要な意味を持っている。

これらの歴代市長が残した足跡は、一本の線で繋がっている。それは、復興、環境、財政、改革という、時代ごとの最重要課題に正面から取り組み、都市の持続可能性を追求してきた歴史である。福田市政の12年間も、この文脈の中で評価されなければならない。

第2部:福田市政3期12年の徹底検証 - 功績と残された課題

2-1.「市民市長」の実績と評価

2013年、前市長の阿部孝夫氏が多選自粛条例に基づき不出馬を表明した選挙で、当時41歳の福田紀彦氏が初当選を果たした¹⁴。米国留学経験を持ち、松沢成文氏の秘書、神奈川県議会議員を務めた経歴を持つ福田氏は、「市民市長」を掲げ、官僚出身の前市長とは異なる市民に近いスタンスをアピールした¹⁶。以来3期12年、福田市政は数々の公約を実現し、高い市民支持率を維持してきた。

その実績は具体的かつ多岐にわたる。就任当時、県内ワーストだった待機児童問題では、認可保育所の整備や丁寧なマッチングを徹底し、就任から1年5ヶ月で待機児童ゼロを達成。その後も4年連続でゼロを維持している¹⁷。また、長年の懸案であった中学校完全給食も、3つの給食センターを整備するセンター方式で任期内に実現した¹⁵。

さらに、障がい者スポーツや芸術活動を推進する「かわさきパラムーブメント」の展開や¹⁸、世界初となる海外からの輸入水素による発電実証など、脱炭素社会に向けた先進的な取り組みも国内外から注目を集めている¹⁸。これらの実績は、第三者機関からも高く評価されている。川崎青年会議所が主催した2期目マニフェストの検証会では、達成率86.8%という評価を得ており、公約実現への実行力の高さが客観的に示された¹⁸。経済界や各種団体からもその手腕を評価する声は多く、4選出馬要請に繋がっている²⁰。

表1: 福田市政 主な政策実績と評価(2013年～2025年)

政策分野	主な公約・事業	実施状況・成果	関連資料
子育て支援	待機児童ゼロ	2015年に達成後、4年連続でゼロを維持	17
教育	中学校完全給食の実施	2017年12月、市内全52校で完全給食を開始	15
共生社会	かわさきパラムーブメント	障がい者アート展やパラスポーツ体験会を定例開催	18
環境・エネルギー	水素戦略の推進	水素ホテルの開業、水素燃料車両の実証試験など世界初のプロジェクトを展開	18
高齢者福祉	健幸福寿プロジェクト	要介護度の維持・改善にインセンティブを与える事業を本格実施	17
地域連携	地域の寺子屋事業	全176校中96校で開講。多世代交流の拠点として拡大	17
マニフェスト評価	2期目公約達成率	第三者評価で49施策の達成率86.8%と評価	18

2-2. 川崎版地域包括ケアシステム - 全ての市民を支える先進的モデルの光と影

福田市政が最も力を注いできた政策の一つが、「川崎版地域包括ケアシステム」の構築である。国のモデルが高齢者を中心に据えるのに対し、川崎市のシステムは、高齢者、障がい者、子ども、子育て世代、さらには現時点でケアを必要としない市民まで含めた「全ての市民」を対象とする、極めて先進的かつ野心的な構想だ²¹。

このシステムの推進のため、市は各区役所に「地域みまもり支援センター」を設置。保健師や社会福祉職などの専門職が、地域の詳細なデータをまとめた「地区カルテ」を活用しながら、住民と共に地域課題の解決にあたる体制を築いた²²。これは、単に行政サービスを提供するだけでなく、住民同士の「ゆるやかなつながり」を育み、地域全体の支え合いの力を向上させることを目指すものである²⁴。

この取り組みは、「顔の見える関係づくり」を促進し、新たな地域活動を生み出すなど、コミュニティの再構築において確かな成果を上げている²⁴。しかし、その一方で大きな課題も存在する。団塊の世代が後期高齢者となる2025年を目前に控え、医療・介護ニーズは爆発的に増大することが予測される²²。全ての市民を対象とするこの壮大なシステムを、財政的にも人材的にも持続可能なものとして維持・発展させていけるのか。その先進性ゆえに、前例のない重い課題を背負っていることもまた事実である。

2-3. 財政運営と議会との関係

福田市政下の12年間で、川崎市の財政規模は大きく拡大した。市税収入は過去最高を更新し続けており、堅調な経済状況を背景とした安定した財政基盤を築いているように見える²⁵。しかし、その内実は楽観を許さない。高齢化の進展に伴い、社会保障関連経費である「扶助費」は増大の一途をたどり、市の財政を圧迫している²⁵。さらに、ふるさと納税制度による市税の流出額は年間66億円を超え、毎年10億円規模で拡大しており、看過できない財源流出となっている²⁵。

表2: 川崎市 主要財政指標の推移

財政指標	2013年度(平成25年度)当初予算	2022年度(令和4年度)決算	備考
------	--------------------	-----------------	----

歳入総額	6,564億円	9,597億円	新型コロナ関連交付金等により大幅増
市税収入	3,184億円	3,654億円	過去最高を記録
扶助費	1,768億円	2,073億円	高齢化等により継続的に増大
ふるさと納税減収額	約10億円未満(推計)	66億円	制度開始以降、急激に拡大
市債残高	約1兆1,600億円	約1兆800億円(令和4年度末見込)	計画的な抑制努力が見られる

出典：川崎市発表の各年度予算・決算資料を基に作成²⁵。2013年度の数値は比較のため当初予算を、2022年度は最新の決算数値を記載。

こうした財政状況の中、福田市長が4選を目指すことに対しては、議会内でも様々な意見が交錯する。「多選批判」は、かつて自ら多選を戒めた阿部前市長の存在もあり、避けては通れない論点だ¹⁴。

与党会派である自民党や公明党は、福田市政の実績を評価し、政策的な連携を続ける姿勢を見せる。特に、国・県・市の三重行政を解消し、市の財源と権限を強化する「特別自治市」構想の実現を共に推進しており、福田市長のリーダーシップに期待を寄せている²⁷。

一方、野党の日本共産党は、福田市政を厳しく批判する。大型開発や大企業の論理が優先され、市民の暮らしや福祉が後回しにされていると主張。国民健康保険料の引き下げや中小企業への直接支援、公共サービスの維持などを求め、市政の根本的な転換を訴えている²⁸。

福田市長は、待機児童問題の解消など、市民が直面する「問題」を具体的に解決する「プロブレム・ソルバー」として高い評価を確立してきた。その手腕は、彼の高い支持率の源泉である。しかし、川崎市がこれから直面する課題は、単年度で解決できる「問題」ではなく、数十年単位で取り組むべき巨大な「ビジョン」そのものである。臨海部再開発、多摩川治水、特別自治市構想。これらは、これまでの実績とは次元の異なる、長期的視点と強大な政治資本を必要とする。4期目を目指す福田市長に問われているのは、卓越したプロブレム・ソルバーが、次なる100年を構想する「ビジョナリー」へと飛躍できるか否か、その一点に尽きる。

第3部：川崎の未来を拓く - 次の100年に向けた重要課題

3-1. 臨海部再開発 - 100年に一度のビッグプロジェクトの行方

川崎市の未来を左右する最大のプロジェクトが、臨海部で進行中の大規模な土地利用転換である。2023年9月、JFEスチール東日本製鉄所の高炉が休止したことに伴い、扇島地区を中心に約400ヘクタールという広大な土地が新たに生まれることになった³¹。これは東京ドーム約85個分に相当する面積であり、市自らが「100年に一度のビッグプロジェクト」と位置づける、まさに世紀の事業である。

市が描く未来像は、かつての重厚長大な工業地帯からの脱却だ。この広大な土地を、脱炭素化社会の実現に貢献するグリーンイノベーションの拠点として再生させることを目指している³²。廃プラスチックやバイオマスを再資源化する新技術や、水素などの次世代エネルギー産業、ロボット、ゲノム・バイオ関連産業などを集積させ、国際競争力のある新たな産業拠点を創出する構想だ³³。

しかし、その実現への道のりは険しい。巨額の投資を国内外から呼び込むための戦略、産業集積を支えるための交通インフラの整備、特に内陸部とを結ぶ「東扇島～水江町地区臨港道路」などの整備は急務である³¹。この巨大プロジェクトを成功に導き、その果実を一部の企業だけでなく、150万市民全体の豊かさに繋げることができるか。次期市長には、壮大なビジョンと共に、極めて緻密な実行計画と強力な交渉力が求められる。

3-2. 激甚化する災害への備え - 多摩川治水と流域全体の安全保障

2019年10月の令和元年東日本台風(台風19号)は、多摩川流域に甚大な浸水被害をもたらした。川崎市民に改めて水害の恐ろしさを突きつけた³⁶。この未曾有の災害を教訓に、国、都、県、そして川崎市を含む流域自治体が連携し、「多摩川緊急治水対策プロジェクト」が始動した。

このプロジェクトは、従来の堤防強化に留まらない、多角的なアプローチを特徴とする。河道の流下能力を阻害していた大丸用水堰の改築、河道内の土砂掘削や樹木伐採による水位低下、既存ダムの洪水調節機能の強化など、ハード対策が急ピッチで進められている³⁷。

さらに重要なのは、「流域治水」という新たなパラダイムへの転換である。これは、川の氾濫を堤防だけで防ぐのではなく、流域全体であらゆる関係者が協働し、雨水を「貯める」「浸透させる」ことで河川への流出を抑制する考え方だ³⁶。公共施設や民有地での雨水貯留浸透施設の

整備、田んぼダムの活用など、市域全体での取り組みが不可欠となる³⁶。気候変動により水害のリスクが増大する中、市民の生命と財産を守るための治水対策は、一刻の猶予も許されない最優先課題であり、次期市長の危機管理能力が厳しく問われる分野である。

3-3. 都市の持続可能性 - 南北格差と「特別自治市」への道

川崎市は、その成り立ちから、工業地帯として発展した南部(川崎区・幸区)と、住宅地として開発された北部・西部(中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区)とで、都市の性格が大きく異なる。この「南北格差」は、インフラ整備、公共サービス、地域コミュニティの在り方など、様々な面で長年の課題となってきた。市議会での質疑においても、地域商店街の活性化や交通弱者対策など、各区が抱える固有の課題が頻繁に取り上げられ、地域間の利害調整の難しさを物語っている²⁸。

この構造的な課題に対する一つの解答として、福田市長や自民党・公明党などが強力に推進しているのが「特別自治市」制度の実現である²⁷。これは、現在、神奈川県が担っている保健所業務や土木管理、教職員人事などの権限と、それに伴う税財源を、県から市へ移管することを目指すものだ。実現すれば、国と川崎市の二層制となり、二重行政の解消による効率化や、地域の実情に応じた、よりきめ細やかな市民サービスの提供が可能になると期待されている²⁷。

この3つの巨大な課題、すなわち臨海部再開発、多摩川治水、そして特別自治市構想は、それぞれ独立したものではない。むしろ、密接に絡み合った「未来への宿題」である。臨海部再開発と多摩川治水は、ともに巨額の財政支出を必要とする。一方で、市の財政は社会保障費の増大やふるさと納税による財源流出という構造的な圧力を受けている。この状況を打開し、未来への投資原資を確保するための切り札が、権限と財源の移譲を伴う特別自治市構想なのである。次期市長は、これらの課題の相互連関を深く理解し、財政的、環境的、そして政治的なリスクを統合的にマネジメントする、極めて高度な戦略性が求められることになる。

終章：次期市長への提言 - 川崎が真に求めるリーダー像

市制100周年という節目に行われる川崎市長選挙。それは、過去1世紀の歩みを総括し、未来1世紀の針路を定める、極めて重要な選択である。本稿で検証してきたように、この都市が直面する課題は、かつてなく複雑で壮大だ。

この歴史的な岐路に立つ川崎市が真に求めるリーダーとは、どのような人物であろうか。それは、単一の能力に秀でた人物ではなく、複数の顔を併せ持つ、複合的な指導者像である。

第一に、巨大プロジェクトを牽引する**「ビジョナリー・アーキテクト(構想力ある設計者)」**としての資質。臨海部再開発や特別自治市構想といった、数十年単位の国家的なプロジェクトを、ぶれることなく推進する強い意志と構想力が不可欠だ。

第二に、市民の日常に寄り添う**「プラグマティック・マネージャー(現実的な管理者)」**としての視点。待機児童、医療、介護、物価高騰といった、市民生活に直結する課題を着実に解決し、安心を届ける実行力が求められる。

第三に、多様な利害を束ねる**「マスターフル・コンセンサスビルダー(卓越した合意形成者)」**としての政治力。南北に長く、多様な顔を持つ150万市民の心を一つにまとめ、議会、県、国、そして民間企業といった多様なステークホルダーとの間で粘り強く合意を形成する調整能力が必須となる。

そして最後に、不確実な時代を乗り切る**「レジリエント・クライシスマネージャー(強靱な危機管理者)」**としての胆力。いつ起こるか分からない大規模災害や経済危機に際し、冷静沈着に市民の生命と暮らしを守り抜く、確固たるリーダーシップが問われる。

現職の福田紀彦氏は、3期12年の実績で「管理者」として卓越した手腕を示してきた。その安定感と実行力に、多くの市民や団体が次なる4年間への期待を寄せている。一方で、新たな挑戦者たちは、長期政権の弊害を指摘し、新たな視点からの変革を訴える。

最終的な選択は、市民一人ひとりの手に委ねられている。このレポートが、川崎市の過去を理解し、現在を直視し、そして未来を託すに足るリーダーは誰なのかを、深く見極めるための一助となることを願ってやまない。

引用文献

1. 川崎市長選 福田氏が出馬表明 4選へ「川崎の未来を実行する」| 宮前区 | タウンニュース, 6月 30, 2025にアクセス、
<https://www.townnews.co.jp/0201/2025/06/20/790047.html>
2. 川崎市長選 福田氏が出馬表明 4選へ「川崎の未来を実行する」| 川崎区・幸区 | タウンニュース, 6月 30, 2025にアクセス、
<https://www.townnews.co.jp/0206/2025/06/20/789947.html>
3. 川崎市長選 福田氏が出馬表明 4選へ「川崎の未来を実行する」| 高津区 | タウンニュース, 6月 30, 2025にアクセス、
<https://www.townnews.co.jp/0202/2025/06/20/789948.html>
4. 川崎市の歴史 - Wikipedia, 6月 30, 2025にアクセス、
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B7%9D%E5%B4%8E%E5%B8%82%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2>
5. 川崎市 - Wikipedia, 6月 30, 2025にアクセス、

- <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B7%9D%E5%B4%8E%E5%B8%82>
6. 2:戦前期の発展と川崎市の拡大 ～ 新百合ヶ丘・登戸 | このまちアーカイブス, 6月 30, 2025にアクセス、<https://smtrc.jp/town-archives/city/shinyurigaoka/p02.html>
 7. 川崎市 歴代首長 | やさしい歯医者ブログ - すずき野デンタルクリニック, 6月 30, 2025にアクセス、<http://www.yasashii-haishasan.com/blog/2009/09/post-14-427913.html>
 8. 金刺不二太郎(川崎ゆかりの人物) - 川崎市立図書館, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.library.city.kawasaki.jp/contents?pid=15225>
 9. 伊藤三郎(イトウ サブロー*)とは? 意味や使い方 - コトバンク, 6月 30, 2025にアクセス、<https://kotobank.jp/word/%E4%BC%8A%E8%97%A4%E4%B8%89%E9%83%8E-1055000>
 10. 巳年で見る川崎 過去にこんな出来事が | 川崎区・幸区 - タウンニュース, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.townnews.co.jp/0206/2013/01/01/171128.html>
 11. 高橋元市長語る会に約100人 追悼本発行 足跡振り返る | 川崎区・幸区 - タウンニュース, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.townnews.co.jp/0206/2017/03/17/374559.html>
 12. 政財界600人が祝福 阿部前市長の叙勲祝賀会 | 麻生区 - タウンニュース, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.townnews.co.jp/0205/2020/02/21/518720.html>
 13. 阿部孝夫 平成14～22年度の9年間 - 川崎市, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000016/16294/pamphlet23.pdf>
 14. 阿部孝夫 - Wikipedia, 6月 30, 2025にアクセス、<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E9%83%A8%E5%AD%9D%E5%A4%AB>
 15. プロフィール | 川崎市長 福田紀彦公式サイト, 6月 30, 2025にアクセス、<https://fukuda-norihiko.com/profile/>
 16. 川崎市長 | 各市長の紹介 - 指定都市市長会, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.siteitosi.jp/message/kawasaki.html>
 17. 福田紀彦 - Wikipedia, 6月 30, 2025にアクセス、<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A6%8F%E7%94%B0%E7%B4%80%E5%BD%A6>
 18. これまでの4年間の実績 | 川崎市長 福田紀彦公式サイト, 6月 30, 2025にアクセス、<https://fukuda-norihiko.com/achievement/>
 19. 福田市長マニフェスト「4年間の達成度は？」大学准教授ら5人が検証 | 川崎区・幸区, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.townnews.co.jp/0206/2021/09/17/591919.html>
 20. 福田市長に4選出馬要請 政治団体「先を読んだ市政評価」 | 中原区 - タウンニュース, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.townnews.co.jp/0204/2025/05/30/787136.html>
 21. 地域包括ケアシステムについて知りたい。 - 川崎市, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.city.kawasaki.jp/templates/faq/350/0000136504.html>
 22. 川崎市地域包括ケアシステムポータル, 6月 30, 2025にアクセス、https://www.kawasaki-chikea.jp/?page_id=2
 23. 川崎市地域包括ケアシステムにおける地域リハビリテーションの展開, 6月 30, 2025にアクセス、https://www.rehab.go.jp/application/files/7015/2566/8764/04_.pdf
 24. 川崎市における 地域包括ケアシステム構築に向けた取組, 6月 30, 2025にアクセス、<https://chiikihokatsucare.com/wp-content/uploads/2025/01/%EF%BC%91%E3%80>

[%81%E7%A6%8F%E7%94%B0%E7%B4%80%E5%BD%A6%E5%B7%9D%E5%B4%8E%E5%B8%82%E9%95%B7.pdf](#)

25. 令和2年度決算から見る川崎市の財政状況について | 矢沢たかお公式サイト, 6月 30, 2025にアクセス、<https://yazawa-t.jp/kawasakishizaiseijyoukyou2/>
26. 川崎市の「財政」関連データ - 生活ガイド.com, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.seikatsu-guide.com/keyword/2500/14/14130/>
27. 自民党川崎市議団政策提言、そして福田候補の1丁目1番地にある「特別自治市」とは一体何なのか? | 矢沢たかお公式サイト, 6月 30, 2025にアクセス、<https://yazawa-t.jp/kawasakishitokubetsujichishi/>
28. 令和7年第2回川崎市議会定例会 代表質問発言者及び発言要旨 - ゆい ..., 6月 30, 2025にアクセス、<https://yui-incunet.com/2025061401-2/>
29. 2025年第2回定例会 代表質問を行いました - 日本共産党川崎市議会議員団, 6月 30, 2025にアクセス、<https://jcp-kawasaki.gr.jp/archives/17936>
30. 市民の声を 市政へ, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.kuyakushokangaerukai.miyamae-kawasaki.jp/files/2021/10/15/%E5%B8%82%E5%8F%A4%E3%83%93%E3%83%A9%E8%A3%8F%E9%9D%A2.pdf>
31. 川崎市臨海部のまちづくり, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.city.kawasaki.jp/590/page/0000166809.html>
32. 大規模な土地利用転換が始まる | 川崎臨海部の「これからの100年」, 6月 30, 2025にアクセス、https://kawasaki-rinkaibu.jp/fukudokuhon_school/page04-land-use-conversion.html
33. VII-1 京浜臨海部の再編整備 - 神奈川県, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/29131/21688.pdf>
34. 川崎カーボンニュートラルコンビナート構想と今後の展望 - 建設物価調査会, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.kensetu-bukka.or.jp/article/14248/>
35. 土地利用・都市基盤整備 - 3団体の取組みの現状 - 各自治体の取組み, 6月 30, 2025にアクセス、https://www.keihin.ne.jp/jichitai_tochiriyou.html
36. 2019年台風19号による被害から考える多摩川水害新対策, 6月 30, 2025にアクセス、http://darumajin.sakura.ne.jp/55member-report/2022member_report/2019%E5%B9%B4%E5%8F%B0%E9%A2%A819%E5%8F%B7%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E8%A2%AB%E5%AE%B3%E3%81%8B%E3%82%89%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%8B%E5%A4%9A%E6%91%A9%E5%B7%9D%E6%B0%B4%E5%AE%B3%E5%AF%BE%E7%AD%96.pdf
37. 多摩川緊急治水対策プロジェクトの取り組み - Biz-Nova(ビズノヴァ), 6月 30, 2025にアクセス、<https://biznova.nikkan.co.jp/article/feature/00001003>
38. 多摩川緊急治水対策プロジェクト - 国土交通省, 6月 30, 2025にアクセス、https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000878086.pdf
39. 多摩川緊急治水対策プロジェクト | 京浜河川事務所 | 国土交通省 関東地方整備局, 6月 30, 2025にアクセス、https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index134.html
40. 流域治水の推進 - 川崎市, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000155452.html>
41. 治水対策 - 川崎市, 6月 30, 2025にアクセス、<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-5-14-0-0-0-0-0-0-0.html>